

最新の業界事情

今年中にトヨタが米GMを抜き販売台数世界1位へ

日本国内の自動車販売台数は伸び悩みを続けている。ここ最近の国内大手メーカーの好業績を支えているのは北米や中国など海外市場における販売台数の増加だ。2006年の世界販売台数は、1位ゼネラル・モーターズ(米)、2位トヨタ自動車、3位フォード・モーター(米)だったが、米大手2社の不振もあり、今年中にはトヨタが世界一の座につくと見られている。また、06年は日産自動車が世界6位、ホンダが7位と、世界の自動車業界における日本企業の存在感は強大だ。各社とも次の課題はエコカーの開発と低価格化。ハイブリッドカー、燃料電池車の開発などでしのぎを削っている。

人材採用に関しては、好調の大手は全般的に採用数を増やしているが、求められる技術者の幅が広がっていることが最近の傾向。IT、エレクトロニクス関連の技術者を他業界から中途採用するケースも増えている。意外なところでは、エコカー開発でパイオニア関係の研究者・技術者にもニーズがある。

自動車メーカーの事務系職種

市場のニーズを分析して新車開発の方向性を考えたり、ブランド戦略や販売戦略を定めたりと、事務系の仕事も多岐にわたる。国際的に活躍するチャンスも多い。



マーケティング

消費者ニーズを吸い上げ、新車開発に反映したり、海外市場の分析や販売戦略の策定などを行う。経済・経営系の知識が活かせる仕事。



海外事業担当

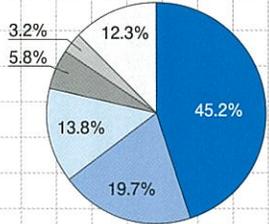
海外の生産・販売拠点の立ち上げや運営、事業拡大のための戦略策定や交渉などを行う。語学力を活かして海外で活躍できる仕事だ。



知的財産担当

自動車は電気、機械、化学、ITなどさまざまな技術の固まり。これらの知的財産を特許申請したり、保護したりする法律系の専門職。

乗用車(軽自動車除く)の国内販売台数シェア(2005年)



■ トヨタ自動車 ■ 日産自動車 ■ ホンダ ■ マツダ ■ 富士重工業 ■ その他

※出所:日本自動車販売協会連合会

車種でいうとトヨタの「カローラ」「ヴィッツ」「エスティマ」、日産「セレナ」、ホンダ「フィット」などが上位を占める



ドライバー

原則フリーランス。腕を認められてチームと契約する。国内A級などレースのカテゴリごとに定められたライセンス取得が必須。

レーシングチーム

自動車メーカーは、F1などのモータースポーツにも積極的に参加。チームを運営する場合もあれば、技術提供をしているケースもある。

国内TOP3は世界ブランド! 国際舞台で活躍する人も多数

自動車といえば、日本企業が世界のトップと互角にわたりあっている業界の一つ。経済成長期にアメリカに脅威を与えたのも日本の自動車だ。トヨタ、日産、ホンダは世界のトップ10にも名を連ね、世界を飛び回って活躍する人も多い。モータースポーツ好き、車好きにとっても憧れの業界だ。

取材・文/渋谷 勉(職種Pick Up) 撮影/徳田貴久 イラスト/藤井昌子



家電メーカー

今や自動車にはさまざまなデジタル家電が搭載されている。その開発を行っているのが家電メーカー。特にカーナビは、オーディオ機能やインターネット機能の集約、小型化が進み、年々進化している注目商品だ。



タイヤメーカー

自動車やバイクの走行性や安全性の向上を図る上で、さらに環境への配慮の面でタイヤメーカーの研究開発は重要な意味を持っている。日本の代表的メーカーはブリヂストン。海外ではミシュランやグッドイヤーが有名。

カーナビ等を供給

タイヤを供給

チーム運営、技術提供

販売委託

素材の加工・供給

部品を供給



国内自動車メーカー

大手企業を中心となって編成する業界
トヨタ自動車、日産自動車、ホンダなどの完成車メーカー。これらのメーカーが新車の開発やデザインを行い、生産体制を整え、その後、各パーツを部品メーカーなどが作り、完成車メーカーの工場で大規模生産する、というのが市販車ができるまでの基本的な流れ。その後は、系列のディーラーに卸し、一般消費者に向けて販売される。もちろん、研究開発や生産にかかわる技術的な仕事だけでなく、国内外の市場に対して、自社製品のブランドイメージを考えたり、広告・販売戦略を策定していく「文系」の仕事の重要度も高い。



カーディーラー

自動車の販売店。メーカーの系列会社の場合もあれば、メーカーと販売代理店契約を結んでいる場合もある。輸入車専門のディーラーもある。販売だけでなく、点検・修理などのアフターケアも行っている。



海外自動車メーカー

自動車セールス

ディーラーの営業担当者。ショールームに常駐し、お客様の予算や希望に合わせて、ふさわしい車種を紹介したり、販売する車の良さを伝え、車を買うのが仕事。お客様の自宅などを訪問して営業するケースもある。



鉄鋼メーカー



アルミ等の非鉄金属メーカー



ガラスメーカー



一般消費者

点検・修理の依頼

販売

下取りの依頼



自動車整備工場

自動車の点検整備をする工場。国の認可を受けた「公認整備工場」では、分解・整備をともなう車検を行うことができる。



中古車販売会社

中古車の下取りや販売を行う会社。最近は店舗型のほか、インターネット上で中古車検索、販売、見積もりなどのサービスを行う会社も。

自動車メーカーの技術系・デザイン系職種

車体やエンジン、機能面の開発のほか、最近では、デザインや居住性の重要度も高い。より幅広い分野の専門性が求められており、他業界での経験を活かして活躍する人も多い。



内外装デザイン

自動車の外装、内装のデザインをする仕事。デザインや配色に関する知識・技術・センスに加え、自動車の構造や機能の理解も不可欠。



エンジン開発

エンジンは自動車の核となる装置。機械系の技術者のほか、化学系、IT系の技術者もかかわる。開発者には大学院出身者も多い。



IT機器開発

今や自動車にはさまざまな通信機能、IT機能が搭載されている。これらの機能を専門的に研究開発するIT系技術者も多数活躍。



エコカー開発

ハイブリッドカーなど、環境に優しい次世代車開発に専門的に携わっている技術者も。エンジンや燃料など幅広い専門知識が必要だ。

自動車部品



自動車部品メーカー

一口に「自動車部品」といっても、エンジン用の部品、エアコン、照明、シート、ステアリング、ばねなど多岐にわたる。それぞれの部品メーカーは、完成車メーカーから注文を受け、仕様に合わせて製品を開発・生産する。企業規模はさまざま。これら、個々の部品メーカーの技術力の高さが、海外でも「性能が良く、故障が少ない」と評価される日本車の品質を支えているのだ。

自動車整備士

自動車の点検整備をする技術者。自動車整備士資格は4種14分類あり、四輪車の整備士として働くには、二級ガソリン、自動車車体整備士などがあると有利。専門学校等の養成課程修了(2年)で二級の受験資格が得られる。